

薬剤部 DI ニュース

●ワクチンについて

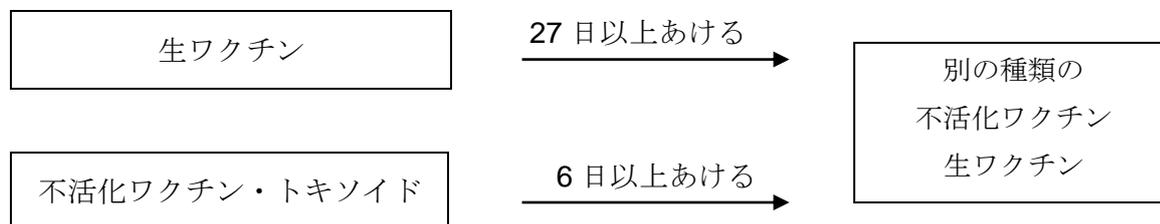
ワクチンの種類について

ワクチンは、生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイドに大別されます。以下の表にまとめています。

ワクチン	生ワクチン	ウイルス	MR(麻しん風しん混合)、麻しん、風しん、おたふくかぜ、水痘、黄熱、ロタウイルス(1 価・5 価)
		細菌	BCG
	不活化ワクチン	ウイルス	日本脳炎、インフルエンザ、狂犬病、A 型肝炎、B 型肝炎、ヒトパピローマウイルス(2 価・4 価)、ポリオ(IPV)、
		細菌	DPT、肺炎球菌、(23 価多糖体・13 価結合型)、インフルエンザ菌 b 型(Hib)、髄膜炎菌
		ウイルス・細菌	DPT-IPV
	トキソイド	毒素	ジフテリア、破傷風、DT

ワクチンの接種間隔について

ワクチンの接種間隔は異なるワクチンを接種する場合と同一ワクチンを接種する場合で異なります。あらかじめ混合されていない 2 種以上のワクチンを別々に接種する場合には、通常不活化ワクチンおよびトキソイドの場合は、6 日以上(次の週の同じ曜日に接種可能)の間隔をあけます。生ワクチン接種の場合は、27 日以上(4 週間後の同じ曜日)の間隔をあけて次のワクチンを接種します。ただし同じ種類のワクチンを複数回接種する場合には、ワクチン毎に推奨される接種間隔が定められているのでそのスケジュールに沿って接種します。



※同じ種類のワクチンを複数回接種する場合は、ワクチン毎に定められた接種間隔を守ってください。(例：B 型肝炎→(6 日以上あける)→B 型肝炎接種しないこと)

次のページに主なワクチンの接種回数と同一ワクチンの接種間隔についてまとめた表を載せています。

ワクチンの接種回数と同一ワクチンの接種間隔

ワクチン	回数	間隔	方法
麻しん	1回		皮下
風しん	1回		皮下
おたふくかぜ	1回		皮下
水痘	2回(推奨)	3か月以上あけることが望ましい	皮下
BCG	1回		経皮
インフルエンザ	1回又は2回	1~4週(4週が望ましい)	皮下
狂犬病	暴露前3回	4週間間隔で2回 6~12月後1回	皮下
	暴露後6回	1回目を0日として以降 3,7,14,30,90日	
A型肝炎	初回2回 追加1回	2~4週 初回1回目の接種後24週	皮下又は筋肉内
B型肝炎	3回	4週間間隔で2回,さらに1回目から20~24週を経過した後に1回	皮下又は筋肉内

※上記は成人の場合であり小児には定期、任意予防接種のスケジュールがあるのでそちらを参考にしてください。

同時接種について

通常は生ワクチンの接種を受けた場合は27日以上、不活化ワクチンを受けた場合は6日以上間隔をあけて別の種類のワクチン接種を行います。医師が特に必要認めた場合には他のワクチン(生ワクチン、不活化ワクチンの両方)と同時接種することができます。同時接種を行う場合は以下の点に留意する必要があります。

- 1)複数のワクチンを1つのシリンジに混ぜて接種しない。
- 2)皮下接種部位の候補場所として、上腕外側ならびに大腿前外側があげられる。
- 3)上腕ならびに大腿の同側の近い部位に接種する際、接種部位の局所反応が出た場合に重ならないように少なくとも2.5cm以上あける。

海外渡航などであまり日数がない場合は同時接種が可能ですが、十分なゆとり(数カ月)をもって、予防接種を勧めることが大切です。